



宮城県中学校長会

会 報

令和8年度 宮城県中学校長会 第77回総会開催される

総 会 概 略

6月4日(木)、第77回宮城県中学校長会総会がホテル白萩で開催されました。千坂新会長の下、今年度124人の本会員が一堂に会しての開催となりました。御来賓として、副教育長の本田史郎様、前会長の佐々木晃様をはじめとする11人の方に御臨席を賜り、盛大に開会行事を執り行いました。

櫻井直人総務副部長の開会宣言後、教育長代理として副教育長の本田史郎様から御祝辞を賜りました。御祝辞では、「三点の期待とお願い」として、①『地域の強みを生かした教育課程の編成』について、明確な「学校ビジョン」を教職員や保護者・地域と共有し、組織一丸となってカリキュラム・マネジメントを推進すること。②『教職員の伴走者としての意識改革と働き方改革の推進』について、教職員の学びを後押しする伴走者であるとともに、業務の精選・効率化により子供と向き合う時間と心身のゆとりを確保すること。③『チーム学校としての組織的な体制の確立』について、中学校における問題の早期発見・対応のため、専門人材(S C、S S W等)を含めた風通しの良い組織をつくり、「S O S の出し方教育」等を推進することを御教示いただきました。

次に、長きに渡り本県教育の充実・発展に寄与され、今年3月末に御勇退なされた32人の校長先生方を代表して、前会長の佐々木晃様に感謝状が贈呈されました。佐々木前会長から、「東日本大震災の際に、被災した地域や学校の再建、教育活動の再開に向けて力を尽くしてきた。また、新型コロナウイルス感染症への対応など、未曾有の危機に直

面し、『当たり前』を見直し、新たな価値や教育の在り方について模索しながら、令和の日本型学校教育の実現に向けて取り組んできた。こうした務めを果たすことができたのも、同じ志を持つ皆さんのお力添えがあったからこそ。改めて感謝したい。学習指導要領の実施を見据え、様々な教育施策が打ち出されており、今後は中学校教育の大きな転換期を迎えることになると思うが、本会の強みである横のつながりを存分に生かしながら、新たな宮城の中学校教育の創造に向け、力強く歩みを進めてほしい。」と、励ましのメッセージをいただきました。

続いて、今年度入会された33人の校長先生方が一人ずつ紹介された後に、新会員を代表して槻木中学校の根元勝美校長に千坂会長から全日中バッチが授与されました。その後、古川西小中学校の皆川司校長が新会員代表挨拶で「宮城県中学校長会の一員となった自覚を持ち、先輩方が築いた本県教育の歩みに学びながら、資質向上と教育の発展に全力を尽くす」といった趣旨のスピーチを行い、総会の前半の部が締めくくられました。

後半の部では、古川北中学校後藤玄校長と唐桑中学校小松佳子校長が議長を務め、前年度の事業並びに会計決算について協議がなされ、承認を得ました。また、令和8年度活動方針及び事業計画、会計予算、そして宣言決議についても原案どおり承認されました。

最後に、古積裕之副会長が閉会の挨拶で「引き続き、会員相互の連携を一層強めつつ、理想とする学校経営に邁進していきましょう」と締めくくり、閉会となりました。



あいさつ

宮城県中学校長会
会 長

千 坂 佳 織

暦は衣替えの季節を迎えました。

この時期になると、3年生の国語の教科書にある「囀りをこぼさじ抱く大樹かな」という俳句を思い浮かべます。春の喜びを謳歌する鳥たちの声（囀り）を、大きな樹がまるで慈しむように包み込んでいる、温かく優しい光景を描いた名句です。「囀りは」子供たちの明るい声、「大樹」は、温かく支える教職員。

多くの学校が運動会や修学旅行や中総体を終え、各学校には、悲喜こもごもの生徒たちの表情があふれていることと思います。

本日は、大変お忙しい中、副教育長 本田史郎様、前宮城県中学校長会会長 佐々木晃様をはじめ、御来賓の皆様、関係機関の皆様、歴代の校長会長の皆様方の御臨席を賜り、令和8年度宮城県中学校長会総会を開催できますこと、会員一同心より感謝申し上げますとともに、大きな喜びと感じているところでございます。

この3月をもちまして御勇退なされました32人の校長先生方におかれましては、長年にわたり、宮城県の教育の発展・向上のために御尽力をいただきましたこと、心から深く感謝申し上げます。皆様方の、今後益々の御健勝を祈念いたしますとともに、今後とも後に続く我々後輩、そしてこの

中学校長会への、変わらぬ御支援と御協力を賜りますよう改めてお願いを申し上げます。

また、この度、新たに会員となられた33人の校長先生方、皆様の入会を心より歓迎いたします。4月から皆様は私たちの仲間でございます。初めは分からないことも多いと思います。様々な提出書類。そして様々な会議。どの会議に出て、どの会議は出なくてよいかな等々、私も近隣の先輩の校長先生に何度も何度も電話を掛け、教えていただきました。

本日の総会は、会員が一堂に会し、同じ立場のもの同士、さらなるネットワークを構築していただくとともに、77回を数えるこの会が持つ歴史と伝統、そしてこの雰囲気を感じていただき、校長としての自覚・覚悟も新たにさせていただく場でもあります。限られた時間ではありますが、今年度の本会の活動等について協議を行い、会の運営や活動方針についての認識を共有して参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

「学力向上」「いじめ・不登校」「働き方改革」「部活動の地域展開」等々と課題は山積しています。学習指導要領の改訂もまもなくです。私たち校長は、この変革の時代の様々な課題に真摯に向き合い、多様な教育実践の工夫を生かすことにより、新しい学びへの進化を図り、計画的かつ柔軟にカリキュラムをマネジメントしながら、令和の日本型学校教育の実現に取り組んでいかなければなりません。今日は、そのことを、全員で確認し合いたいと思います。校長は孤独だといわれますが、ここに124人の仲間がいます。ともに歩んでいきましょう。

話は変わりますが、先日NHKの奇跡のレッス

ンという番組を見ました。アニメワンピースのルフィやドラゴンボールのクリリンの声でおなじみの田中真弓さんが、高校の声優部の生徒にレッスンをするというものでした。その中で、田中真弓さんは長年、声優でありながら「俳優」であり続ける理由を語っていました。技術や名声のためというより、「そもそも人間





を演じることそのものが好きだから」という原点で、舞台に立ち、自分の身体と言葉で相手と呼吸を交わし、その瞬間にしか生まれない芝居に向き合い続けている田中さん。御本人も「忙しくても舞台を続けるのは、好きだから」と語っています。

どこか、校長の在り方にも深く重なるのではないかと、そのとき思いました。校長が校長室にこもらず、教室へ足を運ぶ。生徒の表情を見る。教職員の声を聞く。廊下で立ち止まり、何気ない一言を交わす。なぜそこまで現場に立ち続けるのか。それは、学校経営は書類や報告書だけでは見えない「生きた現実」の中にあるからです。生徒の小さな変化。教職員の迷いや疲れ。学級の空気感。言葉にならない違和感。これらは、机の上では見えません。現場に立ち、人と対話し、同じ空気を吸って初めて見えてきます。ここで、田中真弓さんと校長の姿が重なります。俳優は「役」を通して人間を知ろうとする。校長は「対話」を通して



学校を知ろうとする。足を運び続ける人にだけ見えるものがあるように思います。それは成果や問題だけではなく、生徒の成長の芽。教職員の可能性。組織の空気の変化。言葉にならないサインです。だからこそ、校長が教室に向かうことは巡回ではなく、学校の未来を感じ取りに行く営みではないかと私は考えます。

令和8年の宮城県中学校長会のスタートにあたり、古きも大切にしながら変化にも対応する、一体感のある宮城の令和型中学校教育の気概を全会員で共有し、一層の充実・発展に努めてまいりましょう。

結びに、何よりも我々が心身ともに健康でなければ、望ましいリーダーシップは発揮できません。どうぞここにいる校長先生方一人一人が健康に留意し、会員が相互に研鑽を深め、その成果を自校の学校経営に生かされることを祈念し、開会の挨拶といたします。





祝 辞

宮城県教育委員会
教育長

小野寺 邦 貢 様

(本田史郎副教育長 代読)

若葉の緑が一段と深まり、各地区では中学校総合体育大会が開催され、生徒たちの勝負にける緊張感と熱気あふれる姿が見られる季節となりました。

本日、県内各地から校長先生方が一堂に御参集され、令和8年度宮城県中学校長会総会が盛大に開催されますことを、心よりお喜び申し上げます。加えて、平素より、校長先生方におかれましては、各学校において、強い使命感と深い情熱をもって、学校経営に並々ならぬ御尽力をいただいておりますことに、深く敬意を表しますとともに、心より感謝申し上げます

さて、現在、100年に一度の大変革の時代と言われており、激動する社会情勢やAIなどの技術革新に伴い、学校教育を取り巻く環境が大きな転換期を迎えております。現行の中学校学習指導要領が目指すのは、この変化の激しい社会を生き抜くための「生きる力」の育成であり、知識の習得にとどまらず、学んだことを、他者とかわりながら、生活や社会にどう生かすか、よりよい人生をどう送るのかといった「生涯にわたって主体的に学び続ける力」を育むことが、私たちに課せられた使命であると認識しています。

この理念を、宮城県の現状に照らし合わせたとき、私たちが真摯に向き合わなければならない課題が見えてまいります。本県においては、全国学力・学習状況調査等の結果からも見られるように、基礎的な知識・技能の定着に加え、「自ら課題を見つけ、主体的に解決に向けて探究する力」や「自分の考えを論理的に表現し、他者と協働しながら深めていく力」のさらなる育成が必要となっております。

また、子供たちの自己肯定感の向上をはじめ、学校に登校していない生徒への対応など、生徒一人一人の状況や思いに寄り添い、関係機関との連携を図り、多様な学びの場を確保しながら、全て

の子供たちの成長を支えていくことが強く求められています。

こうした状況の中、大変難しい舵取りを担う校長先生方に、私から三点の「期待とお願い」がございます。

一つは、「地域の強みを生かした教育課程の編成」です。学習指導要領を踏まえ、生徒の実態や地域の状況に合わせて、どう学校経営に具現化していくのか。それは校長先生方が描く「学校ビジョン」にかかっています。「我が校はどのような生徒を育てるのか」という明確なビジョンを教職員と共有し、組織一丸となってカリキュラム・マネジメントを推進するとともに、保護者や地域の方々と共有しながら、地域の強みを生かし、地域全体で子供たちの学びや成長を支える魅力ある学校づくりに御尽力願います。

二つ目は、「教職員の伴走者としての意識改革と働き方改革の推進」です。魅力ある学校づくりを推進するには、まず先生方一人一人が主体的に研究・修養に励み、生き生きと授業改善や生徒指導に取り組める環境が必要です。校長先生方には、教職員一人一人の学びを後押しする伴走者であっていただきたいと同時に、業務の精選や効率化といった「働き方改革」をさらに一歩進め、先生方が子供たちと向き合う時間と、心身のゆとりの確保をお願いいたします。

最後に、「チーム学校としての組織的な体制の確立」です。思春期という多感で揺れ動く時期にいる生徒を預かる中学校では、小学校以上に問題が表面化しやすく、迅速かつ高度な指導力が求められます。重ねて、SNSなどの普及により、生徒たちの人間関係や動きが見えにくくなっており、対応する困難さは増す一方であります。

こうした現状に対応するには、一人の教員、一つの学年に抱え込ませない「組織の力」が不可欠です。校長先生方のリーダーシップのもと、教員や養護教諭に加え、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーといった専門人材が、日常的に情報を共有し合える風通しの良い組織づくりをお願いします。また、「小さな変化も見逃さない」という教職員の意識を高く保つと同時に、子供たち自身が「つらいときは人に頼っていいのだ」と思える『SOSの出し方教育』などの推進を、ぜひお願いいたします。

本県の抱える教育課題は山積しておりますが、本日、お集まりの熱意あふれる校長先生方が、互いに知恵を絞り、宮城の中学校教育、そして何より子供たちの未来を支えてくださることを確信しております。

宮城県教育委員会といたしましても、本県や学校現場が抱える課題に対して、指導主事等による「伴走支援」のさらなる充実を図るとともに、新体制による全ての生徒たちに対する学びの環境を支援するなど、常に現場の先生方とともに歩む教育行政を推進してまいります。

結びになりますが、重責を担う校長先生方におかれましては、御自身の健康にくれぐれも御留意いただき、未来を担う子供たちの健やかな成長のため、引き続き御尽力賜りますようお願い申し上げます。あわせて、宮城県中学校長会のますますの御発展と、本日、御参集の皆様の御健勝を心よりお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

新会員代表挨拶

大崎市立古川西小中学校
校 長 皆 川 司

青葉が目には鮮やかな季節となりました。

本日は、宮城県教育委員会副教育長本田史郎様をはじめ、御来賓の皆様、そして県内各地で御活躍されている校長先生方の前で、新会員を代表して御挨拶申し上げる機会をいただきましたことを、大変光栄に存じます。

私たち新会員は、この4月、県内各地のそれぞれの学校において、校長としての第一歩を踏み出しました。日々の学校運営の中で、「子供たちの命」と「学び」を守る責任の重さ、教職員の力を結集しながら「学校経営」を進める難しさを実感しているところです。

私が勤務する学校は、地域との結び付きが大変強い学校です。地域の皆様には、子供たちの安全の見守りに加えて、田植えや竹炭づくりなど、地域の特色を生かした教育活動にも御協力いただいております。子供たちは地域の方々との触れ合いを通して、自然の豊かさや地域文化の価値を学ぶとともに、人とのつながりの大切さを実感してい

ます。

また、今年度は熊の出没に伴う対応を複数回経験しましたが、その際にも地域の皆様や関係機関の迅速な情報提供と御協力に支えられ、子供たちの安全確保に取り組むことができました。こうした経験からも、学校は地域に支えられ、地域とともに子供たちを育てる存在であることを改めて強く感じております。

本県においては、東日本大震災から15年が経過しようとしています。震災を経験していない子供たちが増える中、震災の記憶や教訓を風化させることなく次世代へ伝えていくことは、私たち教育に携わる者の重要な使命であると考えております。

また、地域の歴史や文化、人とのつながりを大切にしながら志教育を推進し、ふるさとへの誇りと社会に貢献しようとする心を育んでいくことも大切であると考えております。

そして何より、子供たちが互いを尊重し、思いやりの心を育みながら、心身ともに健やかに成長できる学校づくりを進めてまいりたいと考えております。そのためにも、学校・家庭・地域との連携を一層深め、「地域とともにある学校づくり」の実現に努めてまいります。

本日より私たちは、宮城県中学校長会の一員として仲間に加えていただきます。先輩校長先生方が築いてこられた本県教育の歩みに学びながら、校長としての資質向上に努め、県内教育のさらなる充実と発展に微力ではございますが、全力を尽くしてまいります。

結びに、御臨席の皆様方の御健勝と宮城県中学校長会のますますの御発展をお祈り申し上げますとともに、今後とも御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。新会員代表の挨拶といたします。



宣 言

今日、我が国の教育は人格の完成を目指し、伝統と文化を尊重するとともに、豊かな人間関係に満ちた持続可能な社会の創り手を育成する使命を担っている。

私たちは今、グローバル化の進展や急速な技術革新、生成AIをはじめとするICTの発展、さらには自然災害や新たな感染症への対応など、社会が大きく揺れ動く時代を生きている。このような変化の中で、中学校教育が直面する課題に的確に対応するとともに、教育基本法をはじめとする教育関連法規や学習指導要領の趣旨を踏まえ、全日中新教育ビジョンに基づく「学校からの教育改革」を自らの責務として推進し、教育の真価を示していかなければならない。

宮城県中学校長会は、東日本大震災による被災からの再生と、全ての子どもたちの可能性を引き出す学びの充実、教育改革の推進を第一義に、これまでの成果の上にたって、当面する教育課題の解決を図り、特色ある学校づくりに努め、県民の付託に応える決意である。

ここに、第77回総会に当たり、下記事項を決議し、その実現に期する。

決 議

- 一 人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」や「よりよい社会を形成する力」を育む教育を推進する。
- 一 学習指導要領に基づく特色ある教育課程を編成・実施・評価・改善し、確かな学力の定着、豊かな心と健やかな体の育成を推進する。
- 一 現在の教育課題に即した研修を充実し、教職員の資質・能力の向上と使命感の高揚に努める。
- 一 創意ある教育活動を展開し、家庭・地域社会の信頼に応える開かれた学校づくりに努める。
- 一 教育活動の活性化を目指し、人的措置をはじめ確固とした教育条件の整備・充実を期する。
- 一 「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」を堅持し、教育水準の維持向上を期する。
- 一 引き続き「学校における働き方改革」を推進し、教職員が専門性を発揮できる環境整備に努め、有効かつ持続可能な指導・運営体制の構築を期し、新しい時代に求められる学校づくりに向けてリーダーシップを発揮する。
- 一 東日本大震災をはじめ近年多発する災害等により被害を受けた地域の復興を期し、教育活動の充実に向けた支援と防災教育・安全教育の一層の充実を努める。

令和8年6月4日

宮城県中学校長会

◆◆◆◆◆ 新 任 抱 負 ◆◆◆◆◆



「生徒が期待感を持ち 登校する学校」を目指して

柴田町立槻木中学校長

根 元 勝 美

本校は、昭和31年に槻木町と船岡町が合併し、今年で70年目の節目の年を迎える柴田町立の学校です。現在、町としては東北最大の人口となっている柴田町の北部に立地しています。

4月1日の赴任の際には、昨日までの教頭意識を抑え込み、校長としての自覚をしっかりと持って職務に当たらなければならないと、身が引き締まる思いでいました。毎朝、登校時には近くの交差点に立ち、生徒や町民を見守りながら挨拶を交わしています。日に日に大きくなる生徒の挨拶の声に、受け入れられていく自分を感じ、大変うれしくなりました。4月下旬にはクマ騒動があり、地域の方々には生徒や学校を守ろうといろいろと声を掛けていただきました。学校を大事にしている姿勢から、学校への期待感を強く感じました。

時代とともに教育環境は大きく変化し、子供たちを取り巻く状況も、常に変化しています。これに合わせるかのように、学校も変化し、成長していかなければなりません。しかし、保護者や地域の方々の学校への期待は、以前と変わらないように思います。私は、成長し続ける学校づくりを目指しながら、変わらない期待に応えていきたいと考えます。

先輩の校長先生方から学んだ、生徒の変容を話題にする職員室や授業改善、教職員への承認と伴走の姿勢を持った管理職を目指し、挑戦し続ける学校経営に携わっていきたくと思っています。赴任して2か月が過ぎ、素直でまじめな生徒、生徒に真摯に向き合い熱心に指導する教職員、学校運営に温かく協力してくださる保護者と地域の方々の存在を感じています。この恵まれた環境に感謝しながら、挑戦を繰り返すことで、生徒が学校に期待感を持ち、楽しみを持って登校する生徒が増えていくことを願い、活気ある学校づくりに全力を尽くしてまいりたいと考えています。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 新 任 抱 負 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

**伝統を未来に**

村田町立村田第二中学校長
今 野 敦 子

教員生活30年、これまでは県立高校に勤務しており、今回が初めての中学校勤務となります。

前任校は宮城県仙台二華高等学校です。国際バカロレア導入準備のため、途中2年間高校教育課でお世話になりましたが、二華に最初に着任してから11年が経っていました。学校間の異動自体が久しぶりとなる上に、初めての中学校です。何が分からないかも分からないような状態で、4月1日を迎えました。

あれからあっという間に2か月が経ちました。4月当初、教育長をはじめとする教育委員会の皆様や周りの校長先生方に温かく迎え入れていただいたおかげで、何とか無事にここまでたどり着くことができました。そして、着任初日の生徒たちの元気なあいさつと先生方の笑顔が、私にとって大きな励ましとなりました。

今でも度々、中学校の先生方にとってはおそらく基本中の基本であると思われる事柄について質問する私に、周りの先生方は嫌な顔一つせず、丁寧に教えてくれます。着任の挨拶を英語で行って以来、私の顔を見れば「ハロー！」と元気に声を掛けてくれる子供たちもいます。

本校ではPTAの皆様の活動も大変盛んで、町PTAスポーツ大会といった行事に、私も楽しく参加させていただきました。地域の皆様も、紅花の種まきや田植えといった学校行事を全面的に支えてくださっています。

人と人とのつながりを大切にする地域にある学校に赴任することができたことを幸せに思うと同時に、自分が今ここで果たすべき役割についても日々考えさせられます。

本校は現在、令和10年度の再編・統合に向け、教育委員会御指導の下準備を進めています。子供たちが、これまで長く続いてきた伝統を確かに受け継ぎ、それぞれの、また、この地域の、新たな未来につなげてゆくことができるよう、校長として力を尽くす所存です。

**地域とともに歩む
学校づくりを目指して**

富谷市立成田中学校長
高 橋 文 博

豊かな緑に囲まれ、市民センターや高校、そして今年5月に完成したばかりの富谷市複合図書館ユートミヤなど、多くの教育・文化施設が集う富谷市成田。この地で開校22年目を迎えた成田中学校に、新任校長として赴任いたしました。新興住宅地として発展を続け、多様な価値観を持ちながらも、子育てへの熱意が高く学校に協力的な保護者の皆様、そして温かい地域社会に支えられ、その職責の重さに身が引き締まる思いです。

本校の生徒たちは、明朗温和で大変落ち着いています。日々の学習や行事への取組は極めて積極的であり、伝統の応援団活動をはじめとする活発な生徒会活動や、災害時に地域で中学生が果たす役割について考えさせる地域との防災活動などを通して、「次世代の地域を担う」という頼もしい態度を育んでいます。

一方で、本校は現在、在籍生徒数の急激な減少という大きな転換期を迎えています。部活動においては、生徒数の減少や無所属生徒の増加により、従来の活動形態の維持が難しくなりつつあります。こうした状況の中にあっても、生徒が高い志を持って挑戦を続け、技能の向上とともに礼儀や思いやりの心を育むことができるよう、持続可能な教育環境の整備を進めてまいります。

さらに、昨今は安心・安全の確保においても新たな局面を迎えています。4月以降、学校の敷地周辺で特別天然記念物のカモシカが2度にわたり目撃され、市街地でのクマの出没情報も予断を許さない状況です。豊かな自然との共生を学びつつも、生徒の命を守ること、「不適切な事案・初期対応の遅れゼロ」を徹底し、危機管理意識を常にアップデートしていきたいと考えています。

変化の激しい時代だからこそ、学校・家庭・地域が互いに信頼し合い、それぞれの役割を果たしながら連携を深めることが重要です。生徒一人一人の自己肯定感と主体性を育み、地域に愛され、地域とともに成長する学校を目指して、教職員一丸となり学校経営に取り組んでまいります。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 新 任 抱 負 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

**松島の自然に学ぶ
成長の航路**

松島町立松島中学校長

佐 藤 淳

日本三景の一つ、類まれなる美しさを誇る松島の地で、歴史ある松島中学校の校長として教職員と共に歩み出せることに、大きな誇りと身の引き締まる思いで迎えております。

本校は「一町に一校」の中学校であり、町の未来を担う子供たちが一堂に会する、地域にとってかけがえのない学び舎です。それゆえ、保護者や地域の皆様からの期待は非常に大きく、その責任の重さを日々、痛感しております。

私は、本校の教育ビジョンに「松島の自然に学ぶ、成長の航路」を掲げました。この豊かな自然を教育の鑑とし、三つの柱で子供たちの成長を支えていこうと考えました。一つ目は「深い知の海」です。松島湾のように深く、底知れぬ探究心を持って、主体的に自らの「知恵」を磨き続ける生徒を育てること。二つ目は「温かな徳の風」です。島々を繋ぐ架け橋のように、人と人との「絆」を大切にし、温かな思いやりで支え合える豊かな人間性を養う場にすること。三つ目は「健やかな松の根」です。いかなる厳しい潮風にも負けず、大地に根を張る松のように、困難に立ち向かう「粘り強さ」を育む場とすること。

眼前に広がる松島湾には260余りの島々が浮かんでいます。その美しさは、一つの巨大な島があるからではなく、大小様々な形の個性豊かな島々が各所で調和しているからこそ成り立っています。学校も全く同じです。子供たち一人一人の個性や可能性は違っていい。「独自の輝きを放つ学校」——これこそが私の目指す学校の姿です。互いの違いを認め、良さを高め合える集団こそが真に美しい教育の姿であると確信しています。

この美しい日本三景「松島」の地で、生徒全員が自分らしく輝ける居場所を見つけ、未来の大海原へ向かって力強く漕ぎ出していけるよう、保護者や地域の皆様としっかりと手を携え、私たち教職員は丸となって全力で教育活動の舵取りをしていく決意です。

**共創自律の精神のもとに**

石巻市立山下中学校長

大久保 賢 二

校長選考の面接で問われた言葉が忘れられません。「あなたが校長として着任したら、その学校にとって、どのようないいことがあるか。」この問いを日々の判断の根底に置いて学校経営に向き合っています。

本校では、「生徒が明日も来なくなる学校づくり」を目指し、本年度から校訓を「共創自律」としています。自分で考え、選び、行動する。仲間とともに違いを生かしながら新たな価値を創り出す。この「共創自律」は、先生方だけでなく、生徒への挨拶の中でも欠かさず触れている本校の軸です。

その実現に向け、「生徒・教職員の好き・得意の追究」と「教育観の変革」を学校経営の土台に据えました。毎月、先生方が自らを振り返り、どのような「好き・得意」を追究したのかをフォームに回答してもらっています。その声を職員会議資料にまとめ、学校経営の現在地を確認し、生徒の強みに焦点を当てた教育活動へとつなげたいと考えています。

また、「教育観の変革」については、D Xによる効率化だけではなく、教育活動全般を「生徒の成長につながるか」という視点で問い直すことを先生方にお願いしています。その結果として、生徒と向き合う時間や心のゆとりを生み出すことが、本校における働き方改革であり、「教育観の変革」であると考えています。

着任してから今日まで、教頭先生をはじめ、多くの先生方に支えられ、前任の校長先生が築かれた土台にも助けられていることを実感しています。今後は、私が先生方を支えられるよう、対話を深め、何気ない会話の中から教職員の思いを汲み取り学校経営のヒントを得たいと思います。

新任校長への配布資料に、「相手が自分に頭を下げるのは、校長という肩書に対してである」という趣旨の言葉がありました。校長という職にある以上、法令や服務規律を守することは当然です。それに加え、私生活においても、自らの言動が学校や公教育への信頼を損なうものであってはなりません。肩書に甘えることなく、誠実さを何より大切に、「共創自律」の精神のもと、明日も来なくなる学校づくりに努めてまいります。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 新 任 抱 負 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

**鳴瀬ゴールドと
夢桜の蕾を前に**

東松島市立鳴瀬未来中学校長

青 嶋 永

初めて鳴瀬未来中学校へ向かった時の高揚感と緊張感は、今も胸に鮮やかに残っています。校舎が見えた瞬間、まず目に飛び込んできたのは「鳴瀬ゴールド」と呼ばれる、オレンジがかった柔らかな金色の外観でした。海に映る夕陽のように輝くその色彩は、周囲を優しく照らし、その場を温かく包み込んでいるようでした。また、校舎を囲む「鳴瀬夢桜」はまだ固い蕾でしたが、その咲き時をじっと待つ姿は、これから大きく成長していく生徒たちの未来と重なるようでした。

赴任当初は、「これからどのように歩みを進めていくべきか」と、手探りで思いを巡らせる日々でした。しかし、そんな私の緊張をほぐしてくれたのは、学校の何気ない日常の風景です。子供たちと真摯に向き合う先生方の姿、落ち着いて学ぶ生徒たちの様子、そして校内に響く温かな挨拶。こうした日々の営みや、近隣の校長先生方の温かい励ましに支えられ、不安は次第に和らいでいきました。そして、「この大切な学校をしっかりと前へ進めていこう」という決意が胸に満ちていきました。

本校は旧鳴瀬第一中学校・第二中学校が築いてきた大切な伝統を受け継ぎ、「鳴瀬地区の未来を育む学校であってほしい」という地域の想いととも歩んでおります。震災による津波を経験したこの地において、学校は生徒たちの学びの場であると同時に、地域の元気と希望が集まる場所でもあります。

加藤登紀子さんが作詞された校歌の「ここは僕らの世界 鳴瀬未来中学校」という歌詞のように、この学び舎が生徒やこの街の輝ける世界となるよう、力を尽くしていきたいと考えています。そして、生徒一人一人の「鳴瀬夢桜」がそれぞれの未来へ向けて大きく花開くことを目指し、誠実に学校運営に取り組んでいきたいと思ひます。

**菓菜の麓、歴史を紡ぎ
「4年の若き伝統」を創る**

加美町立鳴峰中学校長

日 野 英 信

校長室の窓を開けると初夏の光を浴びた菓菜山が穏やかな稜線を見せてくれています。このたび鳴峰中学校に着任し、この景色の静謐さと責任の重さを改めて心に刻んでいるところです。私が大切にしたいのは「学校とは自己を更新し続ける面白い場所である」という実感を、生徒と教師が分かち合い、共に成長を喜び合える環境の構築です。

本校は創立4年目を迎えました。校舎そのものは地域と歩んできた歴史ある佇まいを見せていますが、鳴峰中学校としての歩みは始まったばかりです。私たちはこの校舎に新しい息吹を吹き込み伝統が形を成していく貴重な過程にいます。建物に刻まれた年輪を尊重しつつそこに集う私たちの志は開拓者でありたい。前例に頼るだけでなく、自ら進むべき航路を描き出す、そんな新しい学校の躍動感を、確かな学校の力へと変えていきたいと考えています。

まずは、生徒たちの好奇心を全力で応援します。本校には「チーム活動」や「鳴峰サミット」など生徒が対話を通じて最適解を導き出す素晴らしい土壌があります。「自分たちの学校は自分たちで創る」という当事者意識を大切に、試行錯誤の過程で生じる失敗さえも、次の知恵へと昇華できる寛容な空気を醸成していきます。そうして一人一人の居場所が確立され、品格ある笑顔が溢れる学び舎となるよう、組織として全力で支えます。

そのためには教職員の心身の充実も欠かせません。「教師の心の余裕が、生徒の可能性を広げる」という信念のもと、形式的な業務を整理し、教師が本来の情熱を傾けるべき生徒との対話や、授業づくりに専念できる環境を整えます。職員室では「情報・感情・智慧の共有」を柱とし、温かな連帯を持った最高のチームを目指していきます。

加美町の豊かな自然と地域の絆は本校の宝です。「あい探」と名付けられた探究学習などを通じて郷土を深く理解し、地域から信頼される学校を追求しつつ、4年目の物語をこの学び舎に綴ります。温かい御支援を賜りますようお願いいたします。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 新 任 抱 負 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

**地域に根差した学校**

栗原市立志波姫中学校長

及 川 浩

本校のある志波姫地区は、県北部の栗原市東部に位置し、町の北端を流れる清流・迫川沿いに広がる平坦で肥沃な大地に恵まれた田園地帯です。また、中央を南北に貫く東北新幹線は「くりこま高原駅」を栗原の玄関口として多くの市民が活用しています。そのような環境の中で、私は毎朝くりこま高原駅を通過して出勤する際に、右側に視線を上げると正面に中学校、右側に小学校が並びその後方にある雄大な栗駒山を眺めています。山の緑に校舎の白い色が映えてとても素敵なところです。このような素晴らしい環境で生徒126人・教職員28人での新任校長としてスタートできたことに大変感謝しています。

学校目標は「自主・健康・奉仕」学校経営の方針に「認め合いの心を『行動へ』互いの良さを生かし、共に高まりを実感する学校を目指す」ために指導を揃えながら、それぞれの指導の違いを認めつつ「チームとしての組織力」をさらに高めていきます。

本校の教職員は、明るく生徒のために真摯に取り組む姿勢が見られます。今年は新たに8人の教職員が入りましたが、各学年や担当から説明や支援を受けながら業務に対応しています。そして、新たに加わった教職員からは、業務改善の視点での意見を聞くことがあり、より良い環境を構築していこうとする意識が感じられます。

中学校の近隣には、小学校・幼稚園・保育所が隣接しており、6月4日に「幼保小中合同引き渡し訓練」を実施しました。4つの施設が合同で行うことで、緊急時の引き渡しの流れの確認とより安全な引き渡しにするため事後検討会も行われます。この他にも「しわひめSC」と連携した部活動の地域展開、地域団体との「花いっぱい運動」など地域の協力なくして進めることができません。

これほどまでに学校のために協力を惜しまない保護者や地域に支えられ、充実した教育活動を送っています。そのため、未来へ向けた子供たちの成長と教職員のさらなる指導力の向上のため、微力ながら精一杯、学校経営に取り組んで参ります。

**伝統を受け継ぎ、
未来へつなぐ**

気仙沼市立階上中学校長

山 田 正

4月1日に新任校長辞令交付式で辞令を受け、翌日の転入職員歓迎セレモニーに臨みました。そこで、2、3年生から本校三大伝統である「挨拶・防災・エール」の一つであるエールによる熱烈な歓迎を受けました。その力強い姿から、生徒たちが大切に受け継いできた伝統への誇りと学校への愛着を感じるとともに、「この子供たちのために力を尽くしたい」という思いを強くし、校長としての責任の重さと新たな決意を抱きました。

本校がある階上地区は、気仙沼市南部に位置し、東から南にかけて太平洋が広がる地域です。一方で、東日本大震災では甚大な被害を受けた地域でもあります。震災の教訓を風化させることなく、防災教育を学校教育の柱としていることが、本校の特色です。

赴任して間もなく3か月が経過しようとしています。その中で、本校三大伝統の一つである挨拶が日常の中に息づいており、生徒たちが自ら進んで相手に声を掛ける姿を目にしました。そこには、互いを思いやり支え合う風土が学校全体に根付いていました。生徒たちの姿から、本校の伝統が日々の学校生活の中で受け継がれていることを実感しました。このよき伝統を大切に受け継ぎながら、生徒一人一人が安心して学べる学校づくりを大切にしたいと思います。

本校の学校教育目標は、「自ら学び、互いに協力してやり抜く生徒の育成」です。生徒同士が認め合いながら成長できるよう、日々の教育活動を大切にしたいと思います。また、気仙沼市が進める学校再編という大きな変化の中にあっても、生徒が安心して学び、希望をもって成長できる学校であり続けられるよう努めていきます。そのためにも、生徒、保護者、地域の皆様から信頼される学校づくりを目指し、教職員とともに歩んでいきたいと思っています。そして、諸先輩方から御指導をいただきながら研鑽を重ね、階上中学校の生徒たちの成長のために力を尽くしてまいります。

◇◇◇◇◇◇◇◇ 新 任 抱 負 ◇◇◇◇◇◇◇◇



新任校長として着任して

南三陸町立歌津中学校長

渡 邊 淳 一

この度、校長の拝命を仰せつかり、南三陸町立歌津中学校に着任いたしました。4月1日に不安が心の大部分を占める中で、歌津中に着任すると2、3年生の生徒たちと先生方に、お迎えをしていただきました。吹奏楽部の演奏と生徒会長の歓迎の言葉、大きな声で歌う校歌に大変感動いたしました。生徒一人一人の笑顔を見ることができ、心に抱いていた不安が、和らぎました。と同時に、新天地での学校生活が少し楽しみになりました。しかし、不安が完全に払拭されたわけではありません。すぐに新年度初めの職員会議がやってきます。校長として、今年度一年間の学校経営方針を示さなくてはなりません。本校の学校教育目標「志をもち、たくましく未来を拓く生徒の育成」のもとに、本年度の指導の重点について「学力向上」、「生徒指導と心のケア」、「防災教育の推進」、「環境美化の推進」、「地域に開かれた学校づくり」、「危機管理の徹底」「連携型中高一貫教育の推進」の7点を掲げました。次は、始業式の式辞です。進級して間もない2、3年生の生徒に3つのC（chance challenge change）を実現し、大きく成長して欲しいと話しました。そして、入学式の式辞です。新入生と保護者に向けて、3つの気（元気 やる気 根気）で中学校生活を実りあるものにして欲しいと話しました。その他、地域の方々との面会や様々な会議でのあいさつ、報告関係等々、次から次へと校長としての仕事が押し寄せてきます。初めてのこと、分からないことも数多くある中で、教頭先生を始め、諸先生方の力を借りながら、校務を遂行しております。

着任してからの2か月を振り返り、新任校長とはいえ、日々判断に迫られ、助言を求められることも少なくありません。「校長に着任したばかりや赴任したばかりだから」と言って決断や助言を避けて通ることはできません。より高いレベルでの意思決定や最適解の助言を生み出すために、今後も地道に研鑽を積み続けて参りたいと思います。

編集後記

この度の会報152号は、6月初旬の総会に関わる内容のものと、新任の校長先生から寄せられた原稿を基に作成しました。御多用のところを執筆に御協力いただきました関係の皆様に、心から感謝申し上げます。

今年度も宮城県中学校長会総会は全会員による参集型で開催し、御来賓の御臨席の下、盛会裏に終えることができました。本会の目的は、県内各地区中学校長会相互の連絡提携を図り、中学校教育の全領域に渡り当面する課題の検討や研究協議、関係機関への提言や情報発信を行い、本県教育の振興に寄与することとしています。総会当日は「令和の日本型学校教育」の実現が求められている中、私たち中学校長は、求められる学校づくりに向けてリーダーシップを発揮し、今後も会員相互の力を結集して創造的かつ豊かな教育活動を推進していくことを確認し合いました。

会報の作成にあたり原稿を読み返しますと、執筆にあたられた関係の皆様への教育に対する情熱が伝わってまいります。改めて学校のリーダーとしての強い覚悟を胸に刻むとともに、共に歩む仲間がいることに心強さを感じました。会員の皆様にはこの会報を手にとっていただき、本会の取組の方向性について改めて確認・共有していただければ幸いです。

終わりにになりますが、今後も情報部は本会の活動の様子ホームページや紀要などを用いて情報発信してまいります。御協力と御支援を賜りますようお願いいたします。

(情報部長 後藤)

令和8年度 宮城県中学校長会事務局

〒985-0851

多賀城市南宮字八幡170

多賀城市立第二中学校内

TEL：022-309-1351

FAX：022-309-1352

E-mail：miyagi-kochokai@wine.plala.or.jp

事務局員：佐々木 奈美子

宮城県中学校長会ホームページ

<http://www13.plala.or.jp/miyagi-jhs/>